

支援技術

Assistive Technology

パシフィックサプライ(株) ひらの 日向野 和夫

環境制御装置(Environmental Control System,ECS)とパソコンを重度肢体障害の方が、生活の中で活用している事例を紹介します。

環境制御装置(以下ECS)の給付等の制度を実施しているのは、横浜市など全国4自治体に限られている。

福祉電話「ふれあいS」(NTT)



「外部スイッチ」の操作で発信が可能なハンズ・フリー型の電話機「シルバーホンふれあいS」は、ECS利用者の多くが利用している。「ふれあいS」の資料請求は、最寄りのNTT窓口が対応している。

Hさん：頸椎損傷



転倒して頭部を強打して頸椎損傷になったHさんの家族は、作業療法士の紹介でECSのユーザー宅に訪問し必要性を痛感。家族の強い勧めで9年前にECSを導入し、「呼気スイッチ」も操作しやすいように本人が工夫を凝らしている。電動リモコンベッドの制御を行なう場合、ベッドのアップダウンの繰り返しにより身体が下方にすれ、スイッチと口の位置関係が大きく変化する問題は周知の事実である。「短いストロー」にして姿勢の変化に応じて呼気スイッチのグーズネックの位置調整は、樹脂部分を口に咥え直してその都度、行なっている。

ヘッドマスター (PRC社)



インターネットの魅力を感じているOさんの強い勧めで現在は、「ヘッドマスター」を使用して体調と相談しながら毎日Webや「ゲーム」を楽しんでいる。家族や友人のホームページを見ることが楽しみの1つで来客との話題でわからないことがあるとWeb「検索」で調べ上げるなどして活用している。

Yさん 脳性マヒ 呼気スイッチ (3つ)



友人たちの協力で20代から13年間単身生活を過ごした経歴を持つYさんは、作業療法士にECSを紹介され、導入したのが7年前。テレビやベッドの制御を中心に行ってきたが、さらに多くの周辺機器を制御するため、増設型の環境制御装置(R-508.友愛メディカル)との組合せで使用している。パソコンは母親の強い勧めで導入したが、当初はあまり乗り気ではなかった様子。現在は「マック」を終日操作している。